

都高P連会報 増刷版 「事例発表」

この増刷版は本年度事業として、「各学区や単位PTAの取り組み事例」を全都会長会で発表、併せて会報でお知らせするものです。是非今後の活動にお役立てください。(10月21日 全都会長会発表)

第1学区 「子どもが自分で夢を掴むために・・・」大人としての関わり方を考える

学区一日研修会(2005/10/15)

発表：田園調布高校 会長 斉藤 郁夫

今年度の第一学区の一日研修会では、子どもたちが自分の進路に迷ったとき、親として、おとなとして何ができるだろうかというテーマに対して、前半は講演会、後半はグループディスカッションという方法で取り組んだ。講演会は、普通の主婦でありながら、子どもに仕事についてのアドバイスをしてあげたいという思いから、各界で活躍している著名人30人にインタビューをし、それを「夢さがしエトセトラ」という本にまとめて出版した菅原亜樹子さん、真船貴代子さんのお二人をお招きした。本を出版するまでのエピソードや、子どもと進路について話し合うときのためのヒントなどを資料や作業をまじえながら、お話していただいた。グループディスカッションでは、102名の参加者が12グループに分かれ、親は、子どもの進路についてどう関わっていけばよいのか話し合った。

講演会

1、「夢さがしエトセトラ」から

<CMプランナー 麻生哲郎さん>

夢はたくさんあっていい。いろいろな経験をしていくなかで1つにしていく。迷ったら動く。動かないでじっとしているのが、一番よくない。動くとも必ず道が開けてくる。

<フェイシャルセラピスト かづきれいこさん>

小さい頃、顔が赤くて悩んでいた。顔の傷を治したり、赤ら顔を治してくれる人はいなかった。だから、自分がなった。痴呆のおばあちゃんが、口紅をさすことで、心が明るくなり症状が快方にむかったり、少年院の少女に好感度のあがるメイクを教えたりしている。きちんとしたメイクができると、更生できる。

<漫画家 藤田和日郎さん>

一人で苦勞したことで、自分と向き合うことができた。絵は技術じゃない、いかに人を感動させるかが大切。若い人たちに、勉強はしとけよと伝えたい。人とのネットワークを広げることと、勉強することが漫画をおもしろくする。漫画家になるには、あきらめないこと。

<スタイリスト 多田えつ子さん>

スタイリストには、センスより理解力が必要。本を読む、新聞、テレビ、友達と食事しながらおしゃべりをする、そういったことすべてが仕事の役に立つ。

<パテシエ 辻口博啓さん>

祖父の代からの和菓子職人の家だった。小学校のときに友達の家で食べたケーキが忘れられず、店に洋菓子をプラスしたいと考えていた。高校のとき、家の事業が傾き生活も一変したが、上京しケーキ屋さんに住み込みで働いた。一番大事なのは、継続させる力。継続させる力とは、耐えること。

2、性格コード

興味とは、他の活動よりもこの活動をしたいという好み。自分がこれだ！と見つけたものは、一生懸命がんばることができる。

性格コード 6つのタイプ

現実的(R)地に足がついていて実践的・・・技術者、農業、消防士など。

研究的(I)好奇心が強く学究肌で自立的・・・医者、研究者など。

芸術的(A)創造的で発想が自由・・・アーティスト、俳優など。

社会的(S)人の助けになり友好的・・・カウンセラー、教師など。

企業的(E)野心的、外向的、精力的で自信家・・・起業家、政治家、営業マンなど。

慣習的(C)責任感があり、信頼でき、緻密・・・金融関係、プログラマーなど。

3、子どもとの接し方

* 子どもの人間力を育てる

どうやって生きていくか、自分で行動することが自立。人とコミュニケーションをとれて自分で歩いていける力を育てるために、親はどうかかわっていくか。親が口を出すと、やる気をなくす。親は経験をふまえて、正しい方向を話してしまう。手をかけすぎない。あたたかく見守る。

* ニートとフリーターについて

NEET（無業者）2003年には、64万人（15～34才）
義務教育終了後、進学も就職もせず、職業訓練もしない若者たちのこと。

< ニートの分類 >

- 非行型 : 高校中退者に多い。
- ひきこもり型 : 不登校がきっかけなど。
- 自己実現追求型 : 大卒に多い。考えすぎる。
- 自信喪失型 : 就職して、早々にやめてしまう。

訓練をしていないために自分で自分の仕事を見つける能力がない。小さい頃から、あてがいぶちに慣れてしまっていることが多い。ニートとフリーターの背景には、子離れできない親がいる。自分は何が好きなのかという本心を聞き出して、親が側面援助する。

* やりたいことを見つけよう！

好きな仕事に出会うには、仕事の意味を考える。迷ってもいいからいろんな経験を試してみる。
お仕事マップ（NPO法人キーパーソン21から）

例えば、上戸彩が好きな子なら、中央にそれを書いてまわりにそれに関わる仕事を書き出してみる。

カメラマン	スタイリスト	雑誌
CM	上戸 彩	メイクアップアーティスト
広告	マネージャー	芸能プロダクション

* 進路の決定に関わる親の役割

進路の決定について、70%の子どもが母親に相談している。大人がもっと視野を広げて、大きな視点からアドバイスする。

グループディスカッション

子どもが夢を持つために大人ができることは何かを考える。

- ・自分の本当にやりたい道を見つけるためには、多少の回り道も必要。
- ・興味があったら、まずやらせてみる。それを親は見守っていく。
- ・情報をインターネットから得ることもある。親も今の技術についていくことも必要。
- ・子どもから相談を受けたら、一緒に考える。あくまでも、進路の決定権は子どもに。
- ・親の選択肢の視野を広げて、子どもにアドバイスしていくことが必要。
- ・子どもの夢をかなえるために、親はどこまでかかわったらいいのか。
- ・子どものやりたいことを優先させてやりたいが、それでは食べていけないこともある。
- ・親の姿、仕事を見せて、働くことを考えさせる。
- ・親の影響が強すぎたはいけないが、意外と子どもは自分で考えている。こう思うよという考えはいいのではないのか。挫折したとしても、親が考えるよりしっかりしている。親は、一生懸命応援していけばいい。